

目次
CONTENTS

- 3 特集
パイル織物
- 8 特集
第21回橋本マラソン
- 10 情報ワイド
 - ▶ 棄権せずに投票しましょう！
 - ▶ 農業委員などの募集
 - ▶ がん検診などのお知らせ
 - ▶ ごみ分別ステーション など
- 14 情報ひろば
- 22 タウン情報
- 23 子育てぱーく
- 24 本のひろば
- 25 健康カレンダー
- 26 フォトトピックス

今月の表紙



パイル織物を製造する様子。今月号では、橋本市の特産品である「パイル織物」の歴史などについて紹介します。

パイル織物

本市高野口周辺は、パイル織・編物の産地で、約140年の歴史があり、日本で唯一パイルの織物と編物の生産者が集まった総合産地として、日本屈指の一大産地を形成しています。今回は、本市の特産品である「パイル織物」について紹介します。

「シテイセールス推進課」

今月のかけ橋人 手芸 × 橋本人 芸



手芸家
なかもと としこ
中本 敏子 さん (高野口町大野)

織物業を営む家庭に生まれたので、子どもの時から布や糸が遊び道具でした。現在は地元の織物会社で働きながら、パイル織物で手芸作品を作ること、微力ながら地場産業のお役に立てているのかなと思っています。また、手芸を通じて、いろんな人がパイル織物に関心を持ってきて、交流できていることをうれしく思っています。生まれた時から、織物がある環境で育ったので、「一生手芸家」を目指しています。今後も、高野口のパイル織物を発信していけるような活動を続けていきたいです。

「パイル織・編物」って どんなもの？

パイルとは、織物や編物の表面に出ている毛のことをさします。パイル織・編物は、その表面に毛（パイル糸）が織り込まれていることが特徴である特殊な有毛生地です。アザラシの毛皮に似た布地という意味から、別名シール織・編物ともいわれています。本市の産地では、表面に毛や糸が出るように作られた織・編物を含めた生地の総称を「パイル織物」といい、代表的なものとしては、モケットといわれる電車の座席シートのような生地や、エコファー（フェイクファー）といわれる毛皮調の生地、カーテンや洋服の生地に使われるベルベット、再織などがあります。本市のパイル織物は、独特の光沢と風合い、そして弾力性、保温性に富む格調高い特殊織物として、さまざまな分野で使用されています。

パイル織・編物の産地 高野口の歴史

高野口のパイル産地としての歴史は古く、江戸時代の木綿織物にはじまり、後に綿織物を西洋アサミの実でひっかいて毛羽立たせパイル調にした「川上ネル」の産地として発展しました。明治の初めには、再織という特殊織物の製法が創案され、当時の外国商館からカーテンなどの注文を受け、アメリカに輸出されるなど地域産業を飛躍させました。その後、大正に入り、シール織物が考案され、昭和の初めには、ドイツから二重パイル織機を導入し、産地は戦前の最盛期を迎えました。昭和30年頃、ナイロンやアクリルなどの合成繊維の開発により、さまざまな素材がパイル糸に使用されるようになり、寝装品やインテリア製品、衣料用品、車両・産業資材へと用途が広がりました。



▲昭和40年代のパイル織機